



安城特別支援学校の1年

9月・仕事の切り出し①

安城市の安城特別支援学校のホームページで校務支援員が運動で使うゴムマットを消毒液で丁寧に拭いていたのは、卒業生で校務支援員の坪山泰知さん(17)川谷市だ。マットの枚数は多く、黙々と手を動かすうちに額には汗がにじんだ。思わず、といったように「大変です」と、ぼつりとこぼした坪山さん。「いつもお

りがとね」と教員から声を掛けられると、照れくさそうに笑顔を見せた。
坪山さんは今春、安城特別支援学校を卒業し、いったんは就労継続支援B型事業所に進んだ。五月に学校



本の汚れなどをチェックする坪山さんと西堀教頭。安城市の安城特別支援学校で

母校で働き 生き生きと

校内には実際、なかなか教員の手が回らずにいた細かな仕事がたくさんあった。図書室での大型絵本の

や汚れのチェック。小学部から高等部までの各担任が保健室に提出する児童生徒の健康観察簿の返却、農場の水やり。新型コロナウイルス感染症拡大の影響が広がる今は、職員室や会議室、玄関ドアの取っ手や電気のスイッチなどの消毒業務で大活躍を見せている。
九月十八日に坪山さんの仕事の様子を初めて見た曜日さん。職員室内で細かい部分まで丁寧に雑巾掛けする姿に「手先が不器用なほうで細かい作業は苦手だと思っていたけど、上手にできてますね」とうれしい発見があった。西堀教頭も「人が見えていなくても絶対に手を抜かず、黙々と仕事に取り組める」と評価。重たい物を持ち上げるなど自分一人ではやりきれない時には「手伝ってください」と近くから高等部までの各担任がの教員に声を掛け、手を借りる。
「坪ちゃん、頑張ってるなあ」「きれいになったよ」と声を掛ける教員たちと、楽しそうにやりとりをする様子も見られた。「社会人として大きく成長させてもらっていますね」と喜ぶ曜日さん。坪山さん自身も「大変なことはあるけど、仕事は楽しい」とやりがいを感じている。
生き生きと働く坪山さんの姿を見守る安楽孝幸校長は「長所を生かした仕事ができるのが一番大切。坪山さんが働いてくれるようになったおかげで、仕事の切り出しに対しても教員の意識が向上したと思う」と話した。(四方さつき)

安城市の安城特別支援学校高等部の就職活動にまつわる話題を紹介しています。次回は三年生の就職活動の結果を報告します。